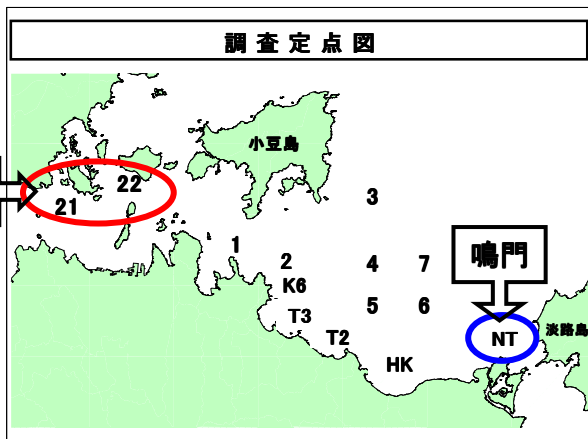


カタクチイワシ卵稚仔出現状況

(2010. 9- 2)

香川県水産試験場 宮川

TEL: 087-843-6511



調査方法

調査日: 9月17日

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2点+鳴門1点

(調査定点図参照)

【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.9.20	0	3	13	0	13	3	1	2	1	0	1				3.4	-
2008.9.17	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.2
2009.9.17	0	2	2	0	5	0	0	2	3	2	10	0	0	0	2.4	1.9
2010.9.17	0	0	0	1	0	609	1	2	0	0	0	0	0	0	55.7	43.8

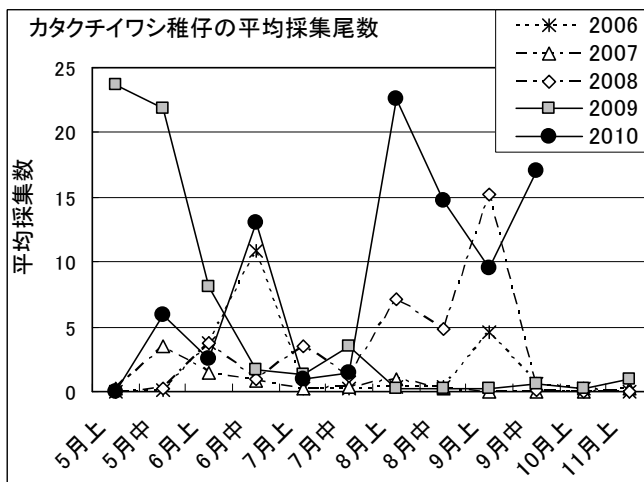
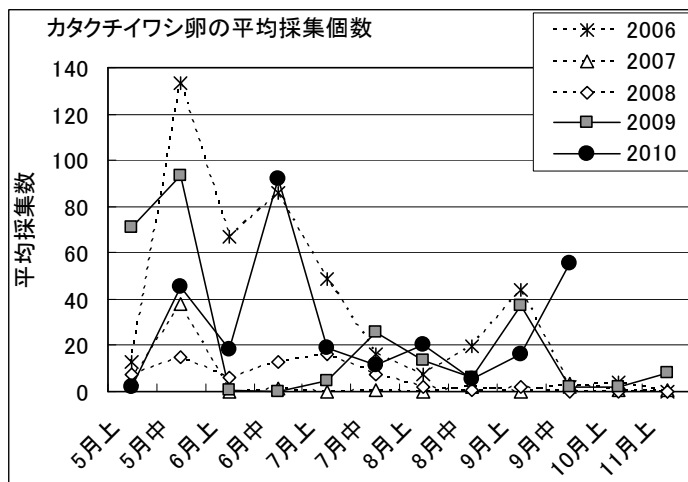
【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.9.20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0.0	-
2008.9.17	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0.1
2009.9.17	0	0	0	2	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0.5	0.4
2010.9.17	0	0	41	18	38	22	8	11	4	0	45	0	0	80	17.0	19.1

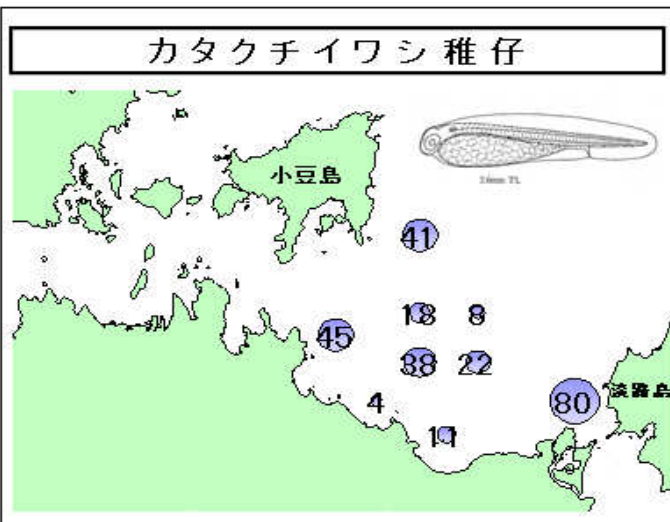
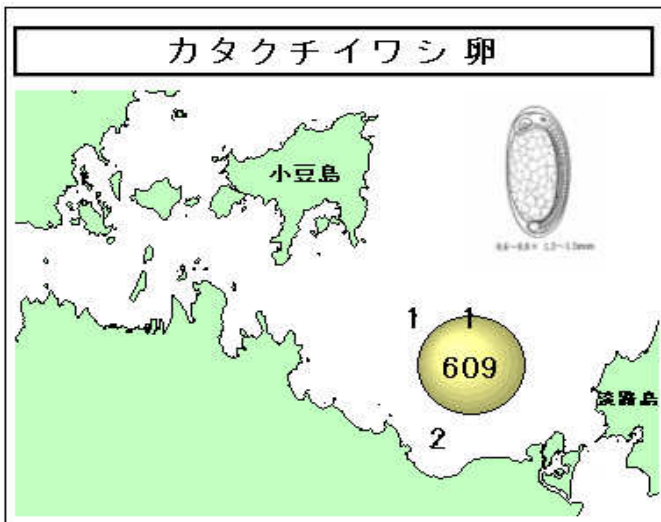
* 表中の「-」は未測定を表す。

* 11点平均値: 播磨灘11定点の平均値を表す(備讃瀬戸および鳴門を除く)。

* 14点平均値: 播磨灘11点+備讃瀬戸2点+鳴門1点の平均値を表す。



* グラフの値は播磨灘11定点における平均値を表す。

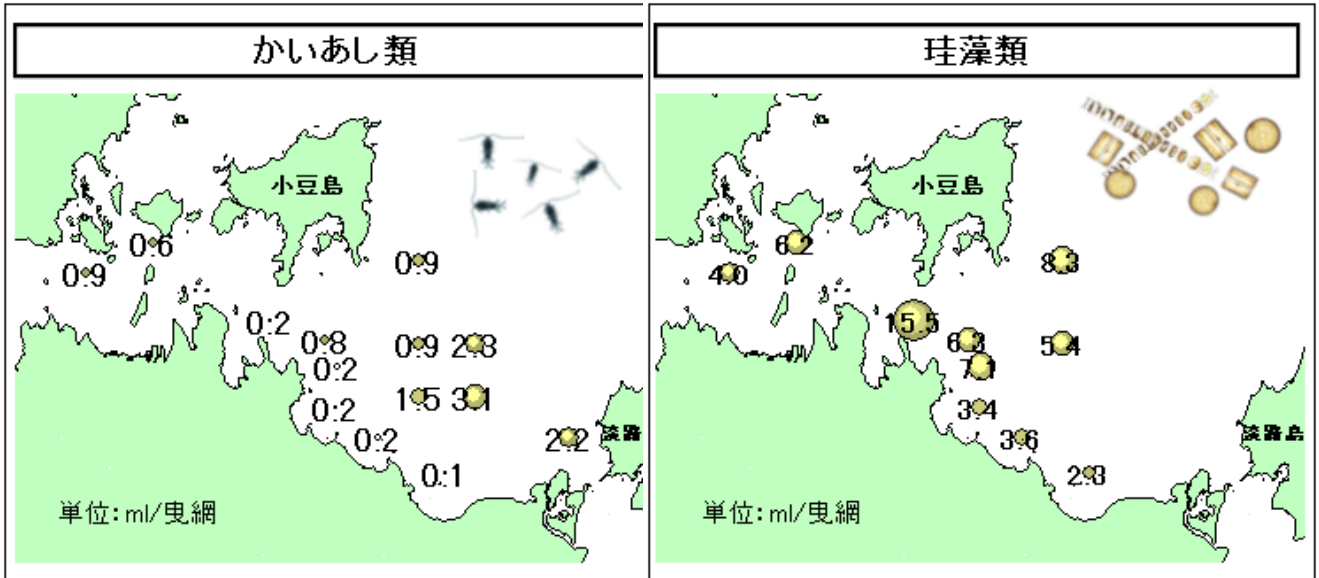


播磨灘11定点における卵の平均出現数は 55.7 個となり、昨年同時期を大幅に上回った。卵は引田沖合での出現数が多かった。

一方、稚仔の出現は平均で 17尾となり、昨年同時期を大きく上回った。稚仔の出現は沖合と鳴門北で多く出現し、播磨灘での稚仔の出現が多い傾向を示した。

引田沖に設置した水温ブイ(午前9時)によると、8月以降の水温は平年並みからかなり高めで推移している。餌料生物として重要なかいあし類は、前回より増加し、11点の平均は0.95mL/曳網と前回の3.5倍であった。カタクチイワシの成魚であれば利用可能な珪藻類は、今回 4.7mL/曳網と前回の1.1倍であった。

【参考】



今回の平均: 0.95 前回の平均: 0.27

今回の平均: 4.71 前回の平均: 4.23

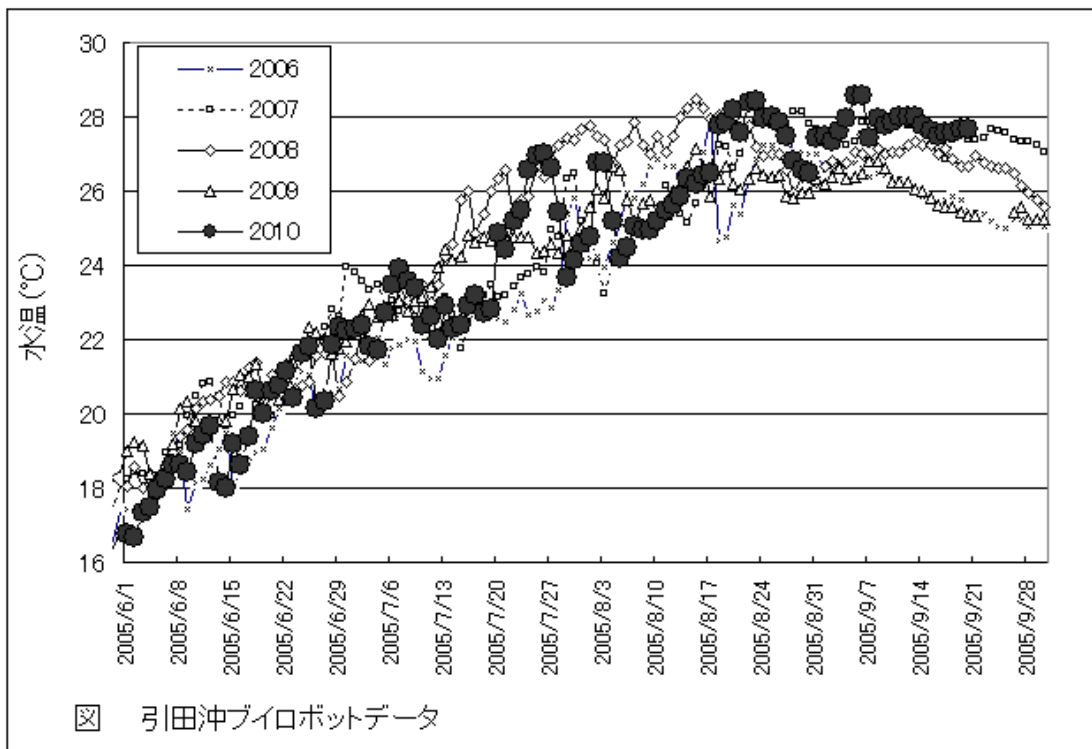


図 引田沖ブイロボットデータ

※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。